


# 国際化市民フォーラム in TOKYO

## 参加申込書 (FAX 受付用)

- ▶ 参加申込方法 東京都国際交流委員会へいずれかの方法でお申込みください。
- 下記ホームページの申込フォームに必要事項を入力の上、送信してください。

東京都国際交流委員会 

- FAX 受付：03-5294-6540
- 電話受付：03-5294-6542（平日 9：00～17：15）

- ▶ 定員になり次第、締切とさせていただきます。
- ▶ 定員を超え、お申込みをお受けできない場合はご連絡します。
- ▶ この情報は、フォーラム以外の目的には一切使用いたしません。

**締切**  
**1月29日(月)**

荒天の場合中止となることがありますので、連絡が取れる電話番号、または E-mail の記入をお願いします。

ふりがな 氏名	所 属
E-mail または TEL	

\*希望分科会（参加を希望する分科会に✓をつけてください。）

### 午前分科会

- 1 「誰一人取り残さない世界」って？ SDGs の視点から 10：00～12：30 学習室2 (3F)
- 2 生活者としての外国人が考える多文化共生社会とは 10：00～12：30 学習室4 (3F)

### 午後分科会

- 3 多文化共生社会を実現するための子どもの日本語学習支援  
(外国にルーツを持つ子どもの日本語学習支援の事例報告) 13：30～16：00 学習室4 (3F)

事務局  
東京都国際交流委員会  
〒101-0023 千代田区神田松永町 17-15 大野ビル 3F  
TEL: 03-5294-6542  
FAX: 03-5294-6540  
URL: <http://www.tokyo-icc.jp>

# 国際化市民フォーラム

## in TOKYO

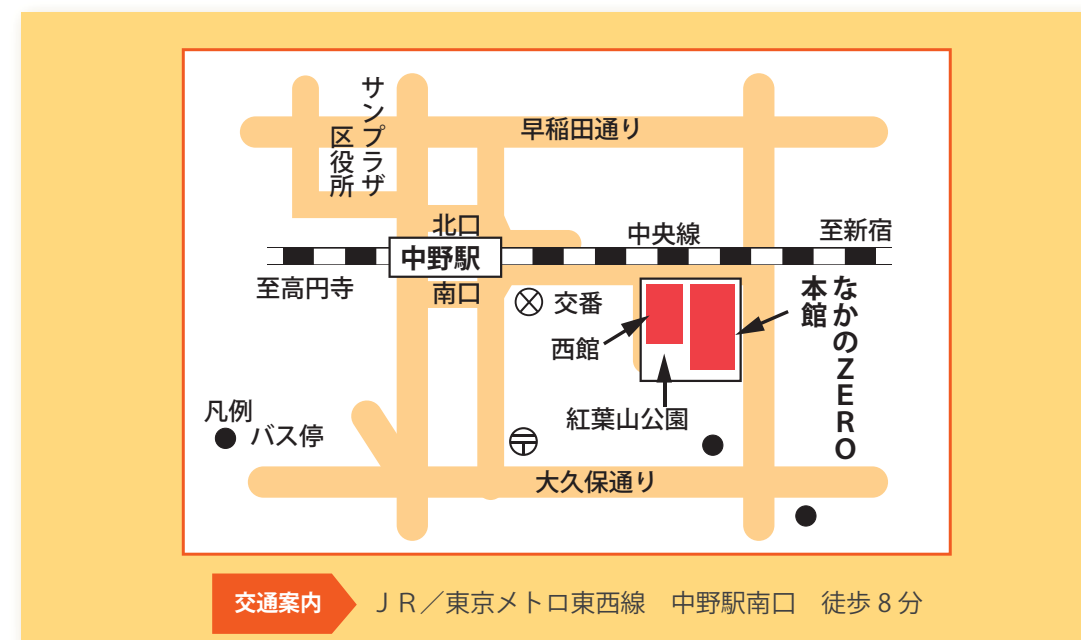


外国人とともに推進する多文化共生社会

平成29年10月1日現在、都内の外国人登録者数は約51万人で全体の約3.7%を占めています。経済のグローバル化、少子高齢化が進展する中で、在住外国人の増加と定住化の傾向は今後ますます進んでいくと考えられます。

このような在住外国人を取り巻く課題や問題点、国際協力の在り方などについて、国際理解を促進し問題解決への認識を深める機会とします。

- 開催日時 平成30年 **2月3日(土)**  
午前 1・2分科会 10：00～12：30  
午後 3分科会 13：30～16：00
- 開催場所 **なかのZERO西館3F** (中野区中野 2-9-7)
- 定 員 **各分科会 50名**
- 申込方法 裏面をご覧ください。
- 締 切 **平成30年1月29日(月)** ※定員になり次第、締め切らせていただきます。
- 参加費 **無料**



主催 東京都国際交流委員会 国際交流・協力TOKYO連絡会 共催 東京都 日本国際連合協会東京都本部  
後援 独立行政法人国際協力機構 (JICA) 一般財団法人自治体国際化協会

学習室 2 (3F)

「誰一人取り残さない世界」って？ SDGs の視点から

国際社会の共通ゴールである持続可能な開発目標 (SDGs) の概要を理解し、その視点から行われている国内外の取り組みを通じて、「誰一人取り残さない世界」の実現に向け、私たちができることを考えることを目指します。



参考 (外務省より) [http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/about/doukou/page23\\_000779.html](http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/about/doukou/page23_000779.html)

基調講演

「SDGs とは」

池上 清子氏 公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン 理事長 / 長崎大学大学院熱帯医学グローバルヘルス研究科 教授

事例報告 1

「SDGs 達成に向けた途上国での取組について」

独立行政法人国際協力機構 (JICA) 企画部 SDGs 推進班

事例報告 2

「SDGs 達成に向けた市民の参加とその課題」

重田 康博氏 宇都宮大学国際学部教授 / 国際学部多文化公共圏センター副センター長 / JANIC 政策アドバイザー

1

学習室 4 (3F)

生活者としての外国人が考える多文化共生社会とは

現在東京には約 51 万人の外国人が暮らしており、その民族・宗教・文化的背景は非常に多岐にわたります。彼らは文化や習慣の違いによって生じる困難だけではなく、日本人と同じように、それぞれのライフステージに応じた問題に直面しています。

この分科会では、長谷部美佳氏をコーディネーターにお迎えし、多文化共生の現状について基調講演をいただきます。また、出身国や年齢の異なる 3 名のパネリストの方々に、日本での生活の様子、地域活動や困りごとなど、それぞれの実体験に基づいたお話を伺います。

生活者としての外国人自身が考える「多文化共生」とは、いったいどのようなものなのでしょうか。会場の皆さまと共に議論を深め、今後の展望を探ります。

基調講演 (コーディネーター)

「多文化共生の現状—日本人と外国人ともに進める多文化共生とは？」

長谷部 美佳氏 東京外国語大学 世界言語社会教育センター 特任講師

パネリスト

- ① 日本での生活全般・地域での活動など アレクサンドラ・シュワルツ氏 (ドイツ出身: 八王子市在住)
② 日本での生活全般・子育て (幼稚園・一時保育) など 吉田・ウィディア氏 (インドネシア出身: 川崎市在住)
③ 日本での留学生活や起業に至った経験など ブランドン・スミス氏 (アメリカ出身: 港区在住)

2

学習室 4 (3F)

多文化共生社会を実現するための子どもの日本語学習支援 (外国にルーツを持つ子どもの日本語学習支援の事例報告)

外国にルーツを持つ子どもが日本語能力を身につけることは、多文化共生社会の実現における重要な柱です。子どもたちが日本で生活していくためには確実に日本語教育を受ける仕組みが不可欠です。しかし現状は子どもたちを取り巻く環境には数々の課題があります。そこで日本語学習を補うために、各地で行政・教育委員会、国際交流協会、NPO・市民活動団体が日本語学習支援に取り組んでいます。

この分科会では、始めに基調講演で子どもの日本語学習支援についての問題を取り上げ、次いで東京都多摩地域の市役所担当課と NPO・市民活動団体からの事例報告を通して、これからの日本語学習支援を考えていきます。

基調講演

「子どもの日本語学習支援をとりまく諸問題について考える」

中山 眞理子氏 NPO 法人 多文化子ども自立支援センター 代表理事

事例紹介

- ① NPO 団体の取り組みから 「都内広域での多文化子ども・若者への支援活動から」 ピッチフォード 理絵氏 (特活) 青少年自立援助センター 定住外国人子弟支援事業部 多文化コーディネーター
② 行政の取り組みから 「東村山市の外国人に繋がる子ども日本語教育の取り組み」 荒井 知子氏 東村山市 市民部 市民相談・交流課長

3

お知らせ

平成 29 年度 国連普及啓発シンポジウム

自分流グローバル人材のすすめ あなたは海外の人々とアイデンティティのキャッチボールができますか？

地球社会のグローバル化に対応できる人材をグローバル人材と定義するならば、これは海外進出の企業人だけでなく地球上で生活する全ての人々に求められる素養と言えます。

今回は営利組織の代表格となる企業、そして非営利組織の JICA からパネリストを迎え、海外で仕事をする上でのアイデンティティの重要性と人それぞれのグローバル人材像を皆さんと考えます。

※事前申込が必要です。 申込締切 1月25日(木)

第1部 シンポジウム 第2部 映画上映 「ポバティエー・インク」 ~あなたの寄付の不都合な真実~

- 開催日時: 平成 30 年 1 月 27 日 (土) 13:00 ~ 16:30
●場 所: 東京ウィメンズ ホール (B1F)
●入場無料

詳しくはホームページを是非ご覧ください。



主催: 日本国際連合協会東京都本部 共催: 東京都、東京都国際交流委員会 後援: 公益財団法人日本国際連合協会、独立行政法人国際協力機構 (JICA) 協力: 一般社団法人国際交流サービス協会、一般社団法人日本在外企業協会